

1-4 動植物及び生態系の状況

(1) 植 物

植物の状況は植物調査での既存資料により調査を行った。

ア 植 生

事業予定地周辺の植生は既存資料¹より調査し、図 4-1-15(1)に示すとおりである。

調査対象区域は、まとまりのある植生としては、樹群をもった公園、クスノキ - ムクノキ群集、ススキ - ネザサ(ケネザサ)群集、シバ - チドメグサ群集が小面積で点在する程度であり、大部分が市街地、住宅地、工場地で植生は乏しい。また、事業予定地も、工場跡地であり、植生は乏しい。

イ 植物相

事業予定地周辺の植物相は、既存資料^{2 3}より調査し、調査範囲は図 4-1-15(2)に示すとおりである。

調査対象区域周辺に生育する植物種は 77 科 351 種が確認されている。

木本類ではクロマツ、カワヤナギ、アラカシ、エノキ、ムクノキ、クスノキ、トベラ、シャリンバイ、ノイバラ、アカメガシワ、センダン、ヌルデ、クロガネモチ、ヤツデ、ネズミモチ等が生育している。

草本類ではイヌタデ、スイバ、スベリヒユ、ウシハコベ、アカザ、ナズナ、アレチヌスビトハギ、メドハギ、カタバミ、スミレ、メマツヨイグサ、ヤエムグラ、オオイヌノフグリ、ヨモギ、セイタカアワダチソウ、セイヨウタンポポ、ススキ、ヨシ、ナガハグサ、カヤツリグサ等が生育している。

1「名古屋市現存植生図」(平成 16 年 3 月 名古屋市)

2「平成 7 年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)植物調査編」(1997 年 (財)リバーフロント整備センター)

3「名古屋市港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分場設置事業に係る環境影響評価書」(平成 10 年 8 月 名古屋港管理組合・名古屋市)

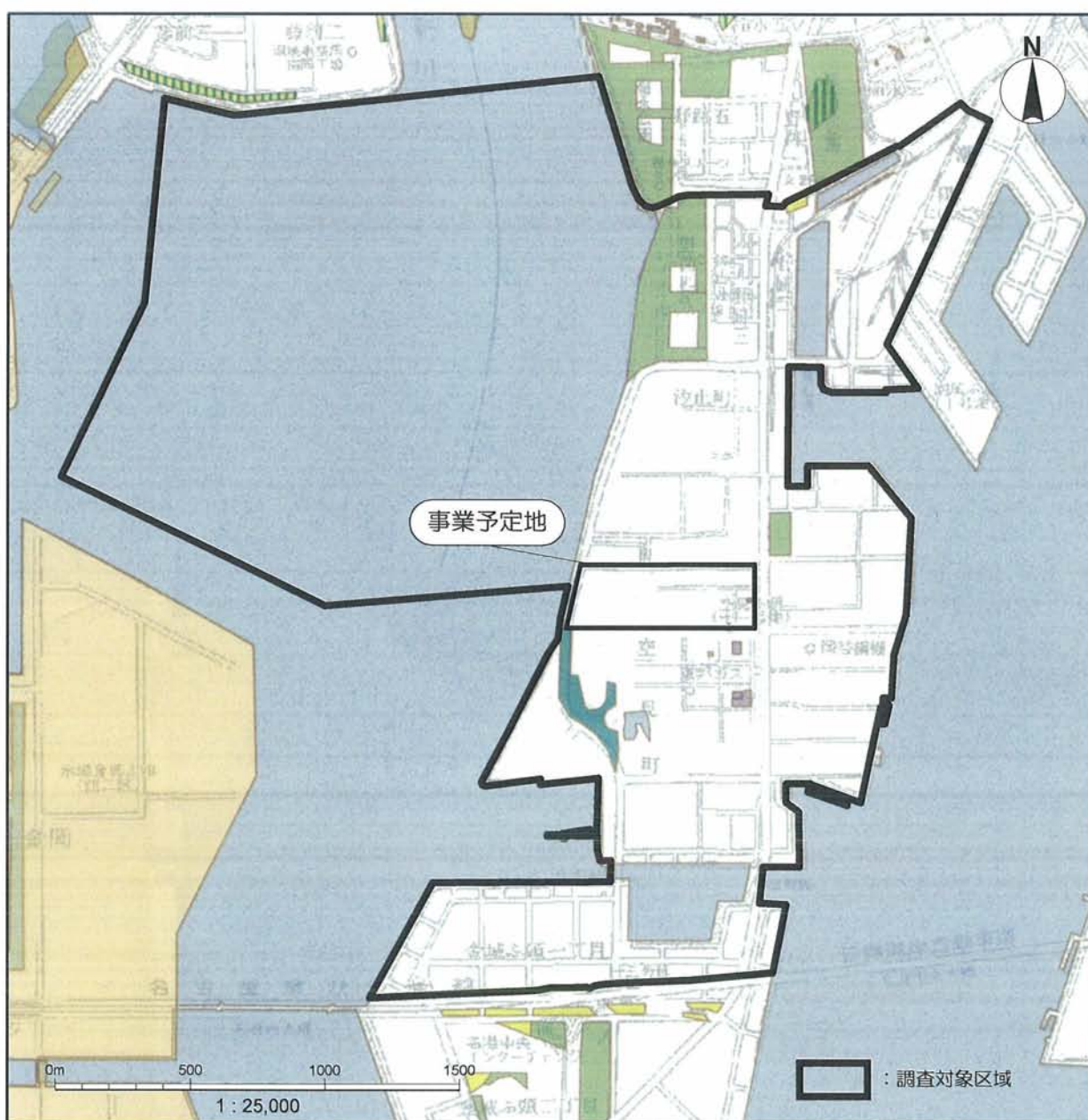
ウ 重要な植物種等

重要な植物種としては表 4-1-26 に示すとおり 8 種が抽出された。

このうち、キヌヤナギは河川敷の低湿地、ハマエンドウは海岸の砂地、ウラギク、シバナ、シオクグ、イセウキヤガラは河口部等の塩湿地、イソヤマテンツキは沿岸部の低湿地、ヒメミソハギは水田湿地に生育する種である。分布状況については、キヌヤナギ、シオクグは庄内川・日光川河口で、ウラギク、シバナ、イセウキヤガラは庄内川河口で、ハマエンドウは日光川河口で、イソヤマテンツキは日光川河口及び港区南陽地区で、ヒメミソハギは港区南陽地区で、それぞれ確認されている。

なお、調査対象区域では指定された天然記念物⁴は確認されていない。また、「第 2、3、5 回自然環境保全基礎調査」(昭和 54、63 年、平成 12 年 環境庁)において特定植物群落に選定された植物群落も確認されていない。

4「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)、「愛知県文化財保護条例」(昭和 30 年 条例第 6 号)及び「名古屋市文化財保護条例」(昭和 47 年 条例第 4 号)に基づき指定された天然記念物



凡 例

- | | |
|---|--|
|  | A. 樹群をもった公園・墓地等
Park, Cemetery, etc. with many planted trees
社寺林
Shrine and Temple forest
植被20%以上の宅地等
Building lot which has vegetation percentage above 20 |
|  | B. 市街地・住宅地
Urbanized area and residential district |
|  | C. 工場地
Factory and industrial area |
|  | D. 造成地・人為掘地等
Land constructed for residence and factory, etc. |
|  | E. 広いコンクリート地
Concrete pavement site |
|  | F. 開放水域
Open water |
|  | a. ヨシ群落
Phragmitetum communis
アメリカセンダングサ亜群落
Subass. bidenetosum |
|  | d. シバ群落 Triglochin etum maritimae asiaticae
e. クサヨシセリ群落 Oenatho-Phalaridetum arundinaceae
f. ミゾソバ群落 Polygonetum thunbergii |

水田雑草群落 Paddy-field weed community

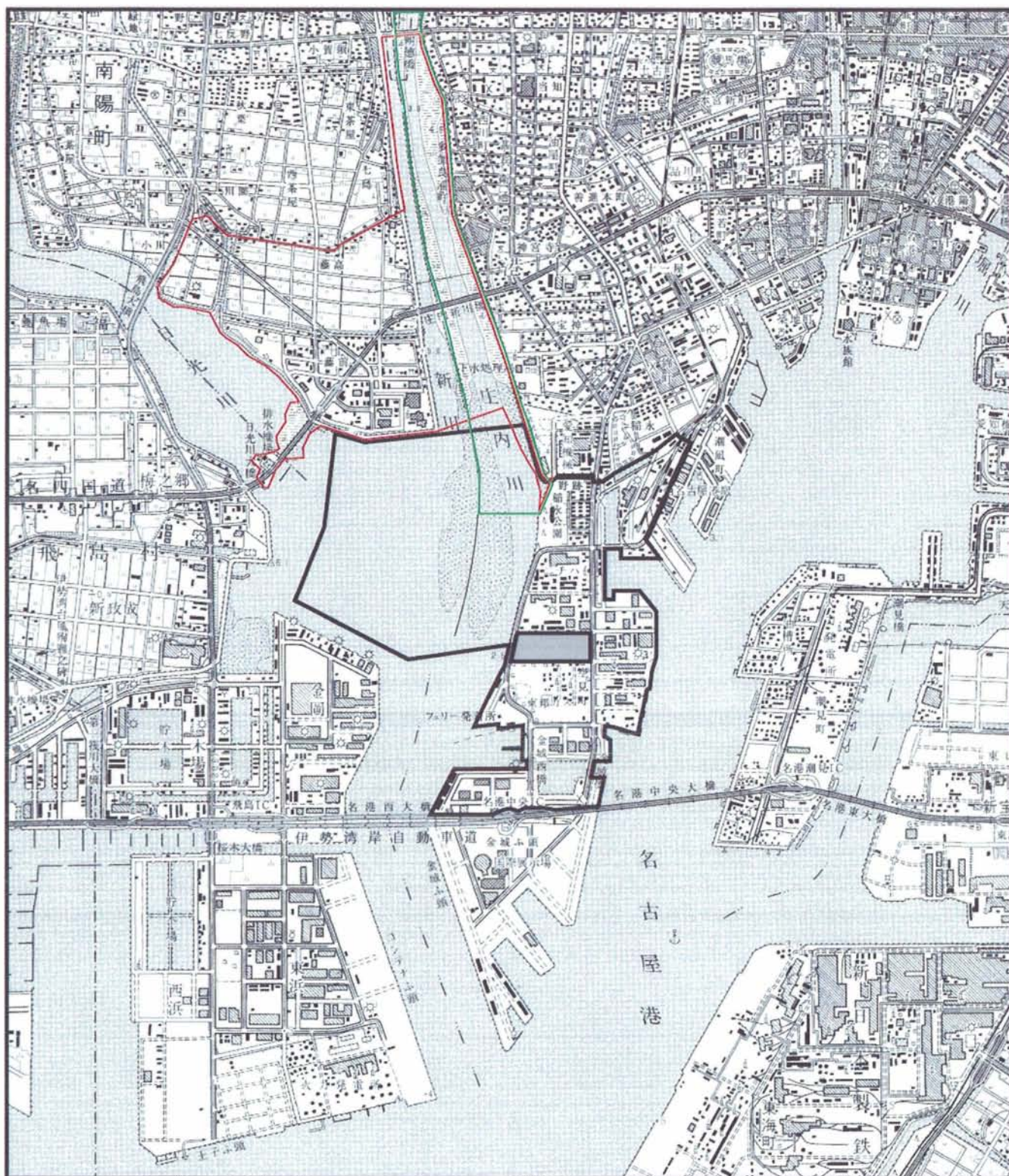
- スズメノテッポウノミノフスマ群落
Stellareto-Alopecuretum aeguaris
- コナギウリカワ群落
Sagittario-Monochorietum
- カズノコグサ亜群落
Subass. beckmannetosum

畑地雑草群落 Field weed community

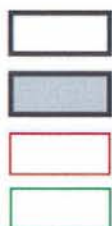
- メヒシバハコベ群落
Stellario-Digitalietum sanguinalie
- カラスビシャク亜群落
Subass. pinelletosum
- クスノキムクノキ群落
Aphanantho-Cinnamometum camphorae
- クロマツケネザサ群落
Arundinario-Pinetum Thunbergii
- ススキネザサ(ケネザサ)群落
Arundinario pygmaeae-Miscanthetum sinense
- シバチドメグサ群落
Hydrocotyleto-Zoysetum japonicae

出典:「名古屋市現存植生図」(平成16年3月 名古屋市)

図4-1-15(1) 現存植生図



凡 例



調査対象区域

事業予定地

既存資料①の調査範囲

既存資料②の調査範囲（庄内新川橋下流2kmから同橋上流5kmまでの庄内川河川区域）

※既存資料名

①「名古屋港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分場設置事業に係る環境影響評価書」（平成10年8月 名古屋港管理組合・名古屋市）

②「平成7年度河川水辺の国勢調査年鑑（河川版）植物調査編」（1997年（財）リバーフロント整備センター）

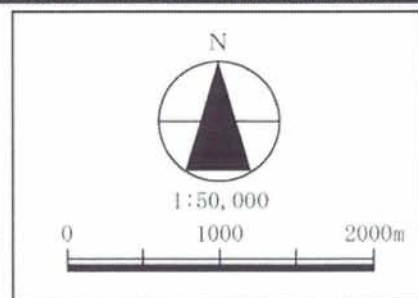


図4-1-15(2) 植物相調査範囲図

表 4-1-26 重要な植物種

科 名	種 名	選 定 基 準				
ヤナギ	キヌヤナギ				NT	VU
マメ	ハマエンドウ					VU
ミソハギ	ヒメミソハギ					EN
キク	ウラギク			VU	外	VU
ホロムイソウ	シバナ			VU	NT	EN
カヤツリグサ	シオクグ					NT
	イソヤマテソツキ					EN
	イセウキヤガラ					NT
6 科	8 種	0	0	2	3	8

< 選定基準 >

「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)に基づく国指定天然記念物

「愛知県文化財保護条例」(昭和30年 条例第6号)に基づく県指定天然記念物

「名古屋市文化財保護条例」(昭和47年 条例第4号)に基づく市指定天然記念物

「絶滅のおそれのある野生動植物種の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)に基づく希少野生動植物種

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 植物」(2000年7月 環境庁)に掲載された種

「VU」絶滅危惧 類

「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち - 植物編 -」(平成13年9月 愛知県)に掲載された種

「NT」準絶滅危惧、「外」リスト外

「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2004 - 植物編 -」(平成16年3月 名古屋市)に掲載された種

「EN」絶滅危惧 B類、「VU」絶滅危惧 類、「NT」準絶滅危惧

< 使用した既存資料 >

・「平成7年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)」(1997年 (財)リバーフロント整備センター)

・「名古屋市港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分場設置事業に係る環境影響評価書」(平成10年8月 名古屋港管理組合・名古屋市)

(2) 動物

動物の状況は動物調査での既存資料により調査を行った。

ア 哺乳類

哺乳類は、既存資料^{3 4}から調査し、調査範囲は図 4-1-15(3)に示すとおりである。

調査対象区域周辺に生息する哺乳類は 4 目 6 科 11 種が確認されている。年間を通じてアブラコウモリ、ハツカネズミ、クマネズミ、ドブネズミなど市街化環境にも適応した小型哺乳類を中心とし、河川敷や農耕地においてはタヌキ、イタチなどの中型哺乳類の生息も確認されている。

イ 鳥類

鳥類は、既存資料^{2 4 5}から調査し、調査範囲は図 4-1-15(4)に示すとおりである。

調査対象区域及びその周辺に生息する鳥類は 18 目 38 科 173 種が確認されている。年間を通じて水域ではカンムリカイツブリ、カワウ、ダイサギ、マガモ、スズガモ、コチドリ、ダイゼン、ハマシギ、オオソリハシシギ、コアジサシなど水辺の鳥が多く確認されているほか、ミサゴ、チュウヒ、ハヤブサなどの猛禽類も確認されている。また、陸域ではキジバト、ツバメ、ハクセキレイ、ヒヨドリ、セッカ、カワラヒワ、スズメ、ムクドリ、ハシボソガラスなど市街地や農耕地に多く生息する種が確認されている。

ウ 両生・は虫類

両生・は虫類は、既存資料^{3 4}から調査し、調査範囲は図 4-1-15(3)に示すとおりである。

調査対象区域周辺に生息する両生・は虫類は、は虫類 2 目 4 科 6 種、両生類 1 目 2 科 6 種が確認されている。は虫類では春から秋にかけてクサガメ、イシガメ、ヤモリ、カナヘビ、シマヘビなど主に水辺や農耕地に生息する種が、両生類では春から秋にかけてアマガエル、トノサマガエル、ダルマガエル、ウシガエルなど主に水田や河川に生息する種が確認されている。いずれの種も県内では都市近郊の河川や農耕地で普通にみられる種である。

エ 昆虫類

昆虫類は、既存資料^{1 4}から調査し、調査範囲は図 4-1-15(3)に示すとおりである。

調査対象区域周辺に生息する昆虫類は、16 目 172 科 590 種が確認されている。水田や河川といった水辺環境が多いことを反映して春から秋にかけてアオモンイトトンボ、ギンヤンマ、シオカラトンボ、ウスバキトンボ、チョウトンボなどのトンボ類、シバスズ、エンマコオロギ、ショウリョウバッタなどのバッタ類、ヒシウンカ、ナガメ、ウズラカメムシなどのカメムシ類、マメコガネ、ナミテントウ、ウリハムシなどのコウチュウ類、ナミアゲハ、モンシロチョウ、ツバメシジミなどのチョウ類といった明るく開けた草地的環境を好む種が多く確認されている。

オ クモ類

クモ類は、既存資料^{1 4}から調査し、調査範囲は図 4-1-15(3)に示すとおりである。

調査対象区域周辺に生息するクモ類は、1 目 17 科 84 種が確認されている。草地的な環境が多いことを反映して春から秋にかけてキクヅキコモリグモ、ウツキコモリグモなどのコモリグモ類、ハナグモ、ヤミロカニグモなどのカニグモ類、ネコハエトリ、マミジロハエトリなどのハエトリグモ類といった徘徊性のクモ類が多く確認されているほか、ナガコガネグモ、ジョロウグモなどのコガネグモ類、オオヒメグモ、ヒメグモなどのヒメグモ類といった造網性のクモ類も確認されている。

- 1「平成 8 年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫类等調査編」(1998 年、(財)リバーフロント整備センター)
- 2「平成 10 年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫类等調査編」(2000 年、(財)リバーフロント整備センター)
- 3「平成 11 年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫类等調査編」(2001 年、(財)リバーフロント整備センター)
- 4「名古屋市港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分場設置事業に係る環境影響評価書」(平成 10 年 8 月、名古屋港管理組合・名古屋市)
- 5「庄内川・新川河口干潟調査会 第 6 回資料 - モニタリング調査結果データ集 - 」(平成 15 年 3 月 24 日、国土交通省中部地方整備局庄内川工事事務所・愛知県河川工事事務所)

カ 重要な動物種等

重要な動物種は表 4-1-27 に示すとおりであり、哺乳類 4 種、鳥類は 50 種、は虫類 3 種、両生類 2 種、昆虫類 23 種、クモ類 2 種が確認されている。

哺乳類はいずれも河川環境や農地環境に生息する種である。

鳥類のうち大部分を占めるサギ類、カモ類、シギ・チドリ類は主として干潟や浅海部などの水域及び水田湿地を利用する水鳥であり、ミサゴ、ハヤブサなどの猛禽類はそうした水域や水田に集まる水鳥を捕食する種である。また、ジュウイチ、アカハラなど樹林性の鳥類は渡り途中の移動個体として観察される種である。

両生・は虫類はいずれも水田環境や河川環境に生息する種である。

昆虫類のうちトンボ類、ゲンゴロウ類、イトアメンボ、ヤマトホソガムシは池沼や水田など淡水環境に生息する種である。その他の昆虫類は自然環境の良好な樹林や草地に生息する種である。

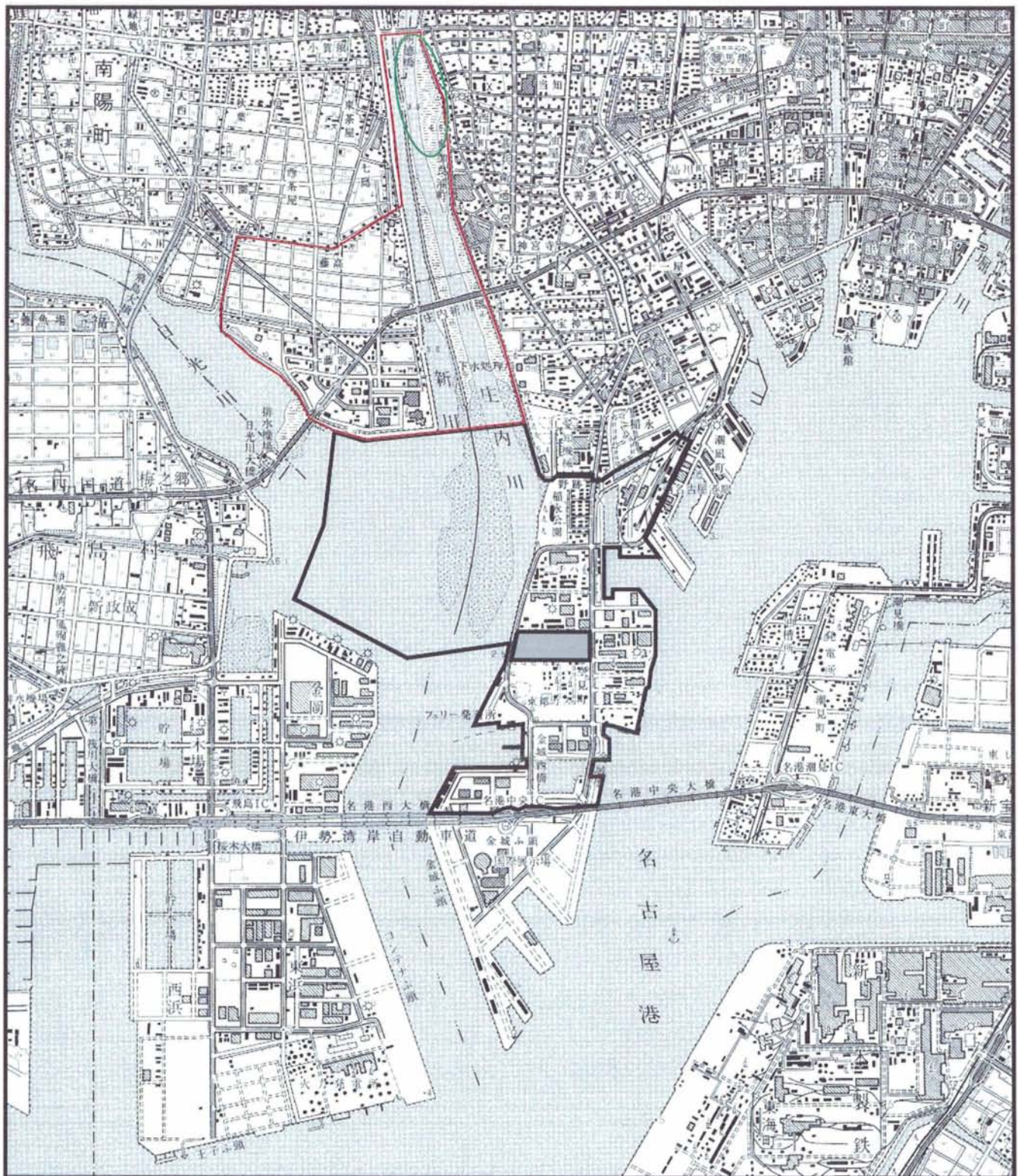
クモ類のうちイソコモリグモは海浜性の種、ハマキフクログモは池沼や河川などの水辺に生息する種である。

重要な動物種のうち既存資料により分布情報が得られたカヤネズミ、ダルマガエル、ベニイトトンボについて確認位置を図 4-1-16 に示す。

なお、調査対象区域には、事業予定地の西側の水域にラムサール条約(正式名称:特に水鳥の生息地として国際的に重要な湿地に関する条約)登録湿地である藤前干潟(平成 14 年 11 月 18 日登録、面積 323ha)が存在する。(図 4-1-17 参照)

また、調査対象区域では、指定された天然記念物⁶は確認されていない。

6「文化財保護法」(昭和 25 年 法律第 214 号)、「愛知県文化財保護条例」(昭和 30 年 条例第 6 号)及び「名古屋市文化財保護条例」(昭和 47 年 条例第 4 号)に基づき指定された天然記念物



凡 例

- 調査対象区域
- 事業予定地
- 既存資料①の調査範囲
- 既存資料②③の調査範囲（明徳橋下流付近）

※既存資料名

- ①「名古屋市港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分場設置事業に係る環境影響評価書」（平成10年8月 名古屋港管理組合・名古屋市）
- ②「平成8年度河川水辺の国勢調査年鑑（河川版）鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査編」（1998年（財）リバーフロント整備センター）
- ③「平成11年度河川水辺の国勢調査年鑑（河川版）鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査編」（2001年（財）リバーフロント整備センター）

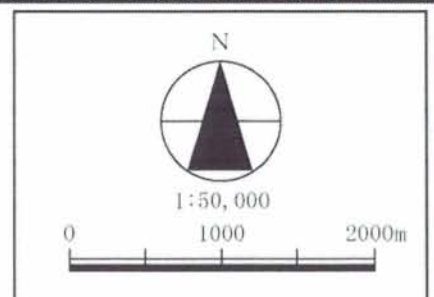
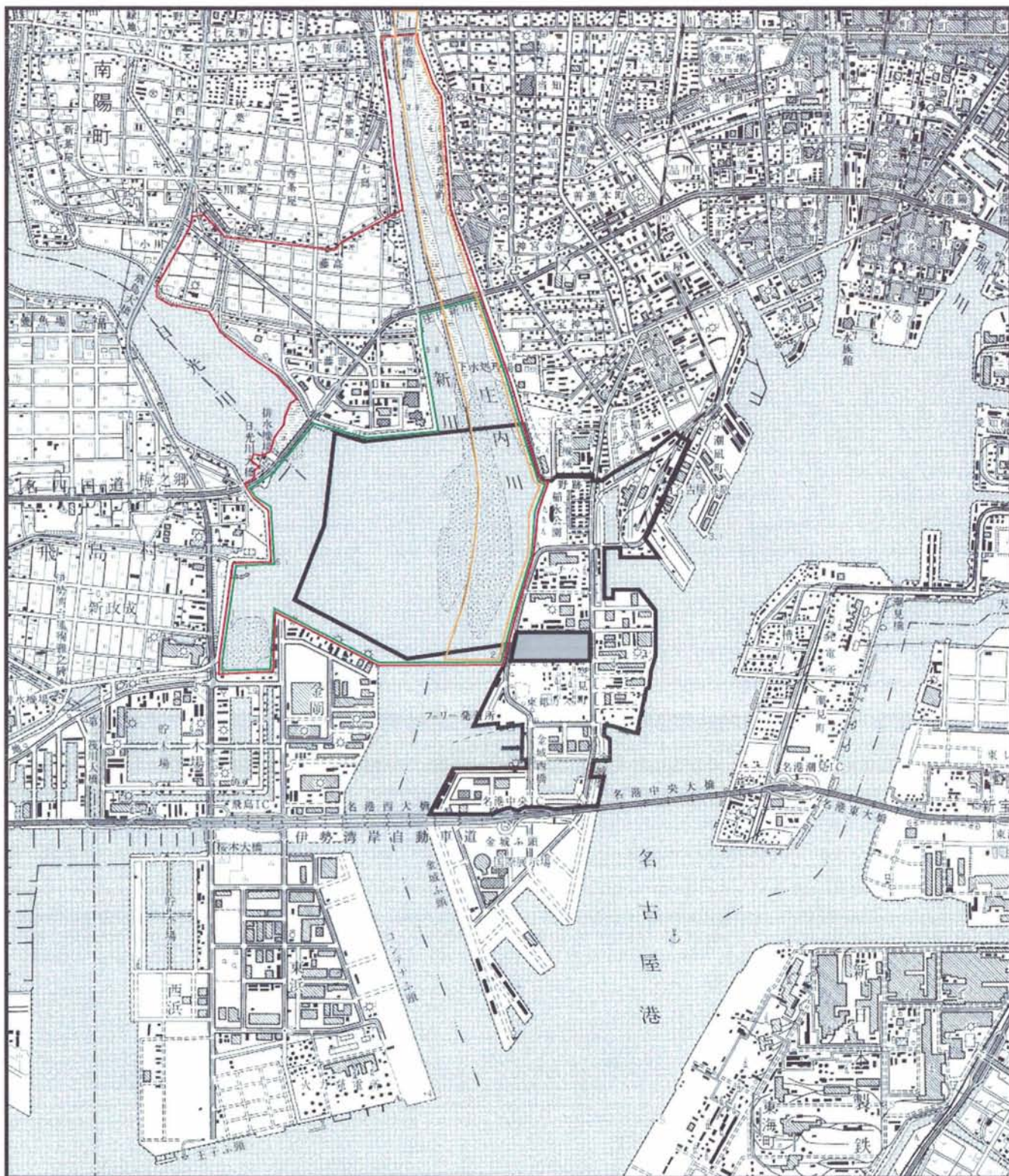
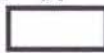


図4-1-15(3) 動物相調査範囲図(哺乳類、両生・は虫類、昆虫類、クモ類)



凡 例

- | | | | |
|---|---|---|------------|
|  | 調査対象区域 |  | 事業予定地 |
|  | 既存資料①の調査範囲 |  | 既存資料②の調査範囲 |
|  | 既存資料③の調査範囲（庄内新川橋下流3kmから同橋上流3.4kmまでの庄内川河川区域） | | |

※既存資料名

- ①「名古屋市港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分場設置事業に係る環境影響評価書」（平成10年8月 名古屋港管理組合・名古屋市）
- ②「庄内川・新川河口干潟調査会 第6回資料-モニタリング調査結果データ集-」（平成15年3月24日 国土交通省中部地方整備局庄内川工事事務所・愛知県河川工事事務所）
- ③「平成10年度河川水辺の国勢調査年鑑（河川版）鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫類等調査編」（2000年（財）リバーフロント整備センター）

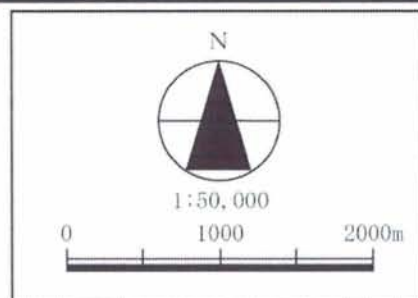


図4-1-15(4) 動物相調査範囲図(鳥類)

表 4-1-27 重要な動物種

項目	科名	種名	選定基準				
哺乳類 3 4	ネズミ	アカネズミ					VU
		カヤネズミ				VU	EN
	イヌ	タヌキ					VU
	イタチ	イタチ					VU
鳥類 2 4 5	サギ	サンカノコイ			EN	DD	
		ヨシコイ				EN	EN
		チュウサギ			NT		NT
	コウノトリ	コウノトリ	特天	国内	CR		
	トキ	クロツラヘラサギ			CR		
		クロトキ			DD		
		マガン	国天		NT		
	カモ	ヒシクイ	国天		VU		
		トモエガモ			VU	VU	VU
	タカ	ミサコ			NT	NT	NT
		ハチクマ			NT	VU	VU
		オシロウシ	国天	国内・国際	EN		
		オオタカ		国内	VU	NT	NT
		ツミ				NT	NT
		ハイタカ			NT	NT	NT
		サシバ				VU	
		ハイイロチュウヒ				NT	
		チュウヒ			VU	EN	VU
		ハヤブサ		国内	VU	EN	VU
	クイナ	ヒクイナ				VU	VU
	タマシギ	タマシギ				VU	VU
	チドリ	シロチドリ					VU
		ダイゼン				LP	
	シギ	オシロトウネン				NT	
		ウスラシギ				VU	VU
		ハマシギ				LP	
		コオハシギ				NT	
		オハシギ				NT	
		ミユビシギ				NT	
		エリマキシギ				NT	
		キリアイ				VU	
		オオハシギ				NT	
		シベリアオオハシギ			DD	DD	DD
		ツルシギ				VU	EN
		アカアシシギ			VU	NT	NT
		タカフシギ				VU	NT
		オグロシギ				VU	VU
		オオソリハシギ				NT	VU
		ダイシャクシギ				NT	NT
		ホウロクシギ			VU	VU	VU
	カモメ	スズクカモメ			VU	EN	NT
		オオアシサシ			VU		
		コアシサシ		国際	VU	NT	VU
	カッコウ	シユウイチ				VU	
	フクロウ	コノハスク				CR	EN
		オオコノハスク				DD	DD
	ツバメ	コシアカツバメ					NT
	ヒタキ	アカハラ				VU	
		コサメヒタキ				NT	
	ホオジロ	ノシコ			NT	DD	DD
は虫類 3 4	イシガメ	クサガメ					NT
		イシガメ					NT
	ヘビ	シマヘビ					NT
両生類 3 4	アカカエル	トノサマカエル					VU
		ダルマガエル			VU	NT	CR

表 4-1-27 重要な動物種(つづき)

項目	科名	種名	選定基準				
昆虫類 1 4	イトトンボ	ムスシイトトンボ					NT
		ヘニイトトンボ			VU	EN	CR
		ヒメイトトンボ			CR+EN	EN	EX
	サナイトンボ	ナゴヤサナエ				NT	NT
		メガネサナエ				NT	NT
	ヤンマ	ネアカヨシヤンマ				VU	VU
		アオヤンマ				VU	NT
		マルタンヤンマ					VU
		カトリヤンマ					NT
		ヤブヤンマ					NT
	エゾトンボ	トラフトンボ				VU	NT
	トンボ	ヘッポウトンボ	国内		CR+EN	CR	CR
		キトンボ					NT
	アリツカオロギ	アリツカオロギ					DD
	セミ	ニイニイセミ					NT
	イトアメンボ	イトアメンボ			VU		
	ゲンゴロウ	ゲンゴロウ			NT	VU	EX
		コガタゲンゴロウ			CR+EN	EX	EX
		マルカゲンゴロウ				VU	EX
		スジゲンゴロウ			CR+EN	EX	EX
		ホソガムシ				NT	DD
	ツチハシムシ	マメハシムシ					EN
	タテハチョウ	ヒオトシチョウ					NT
クモ類 1 4	コモリグモ	イソコモリグモ			VU		
	フクログモ	ハマキフクログモ					NT
	36科	84種	4	6	31	55	60

< 選定基準 >

「文化財保護法」(昭和25年 法律第214号)に基づく国指定天然記念物

「愛知県文化財保護条例」(昭和30年 条例第6号)に基づく県指定天然記念物

「名古屋市文化財保護条例」(昭和47年 条例第4号)に基づく市指定天然記念物

「特天」特別天然記念物、「国天」国指定天然記念物

「絶滅のおそれのある野生動植物種の種の保存に関する法律」(平成4年 法律第75号)に基づく

希少野生動植物種

「国内」国内希少野生動植物種、「国際」国際野生希少動植物種

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 哺乳類」(2002年3月 環境省)

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 鳥類」(2002年8月 環境省)

「改訂・日本の絶滅のおそれのある野生生物 - レッドデータブック - 爬虫類・両生類」(2000年2月 環境庁)

「無脊椎動物(昆虫類、貝類、クモ類、甲殻類等)のレッドリストの見直しについて」(平成12年4月12日、環境庁)に掲載された種

「CR」絶滅危惧 A類、「EN」絶滅危惧 B類、「CR+EN」絶滅危惧 類、

「VU」絶滅危惧 類、「NT」準絶滅危惧、「DD」情報不足

「愛知県の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックあいち - 動物編 - 」(平成14年3月 愛知県)に掲載された種

「EX」絶滅、「CR」絶滅危惧 A類、「EN」絶滅危惧 B類、

「VU」絶滅危惧 類、「NT」準絶滅危惧、「DD」情報不足、「LP」地域個体群

「名古屋市の絶滅のおそれのある野生生物レッドデータブックなごや2004 - 動物編 - 」(平成16年3月 名古屋市)に掲載された種

「EX」絶滅、「CR」絶滅危惧 A類、「EN」絶滅危惧 B類、

「VU」絶滅危惧 類、「NT」準絶滅危惧、「DD」情報不足

< 使用した既存資料 >

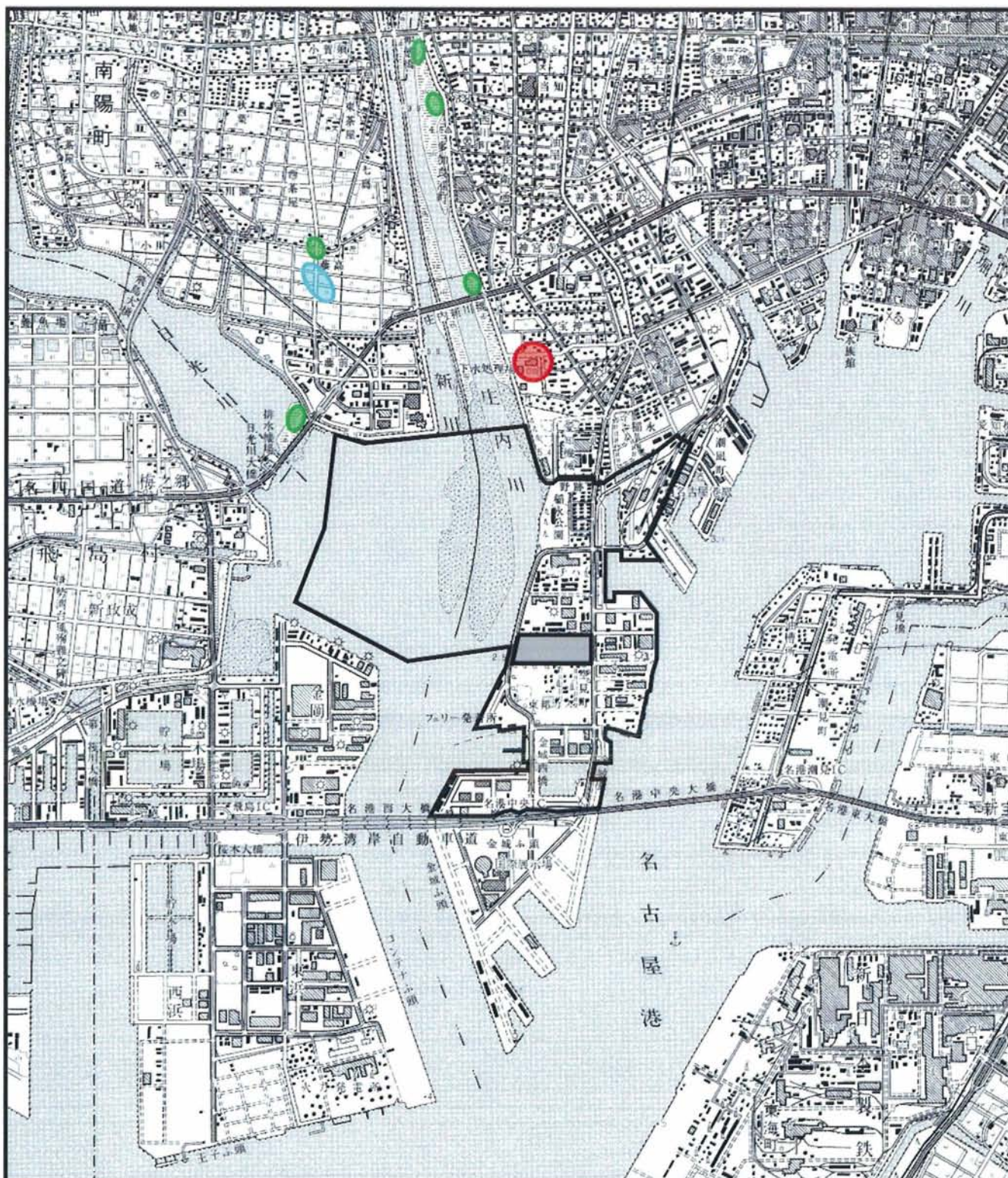
1 「平成8年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫类等調査編」(1998年、(財)リバーフロント整備センター)

2 「平成10年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫类等調査編」(2000年、(財)リバーフロント整備センター)

3 「平成11年度河川水辺の国勢調査年鑑(河川版)鳥類調査、両生類・爬虫類・哺乳類調査、陸上昆虫类等調査編」(2001年、(財)リバーフロント整備センター)

4 「名古屋市港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分場設置事業に係る環境影響評価書」(平成10年8月、名古屋港管理組合・名古屋市)

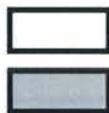
5 「庄内川・新川河口干潟調査会 第6回資料 - モニタリング調査結果データ集 - 」(平成15年3月24日、国土交通省中部地方整備局庄内川工事事務所・愛知県河川工事事務所)



凡 例

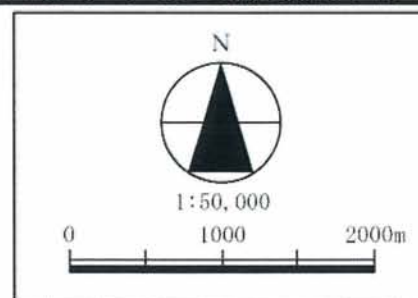
確認位置

- カヤネズミ
- ダルマガエル
- ベニイトトンボ



調査対象区域

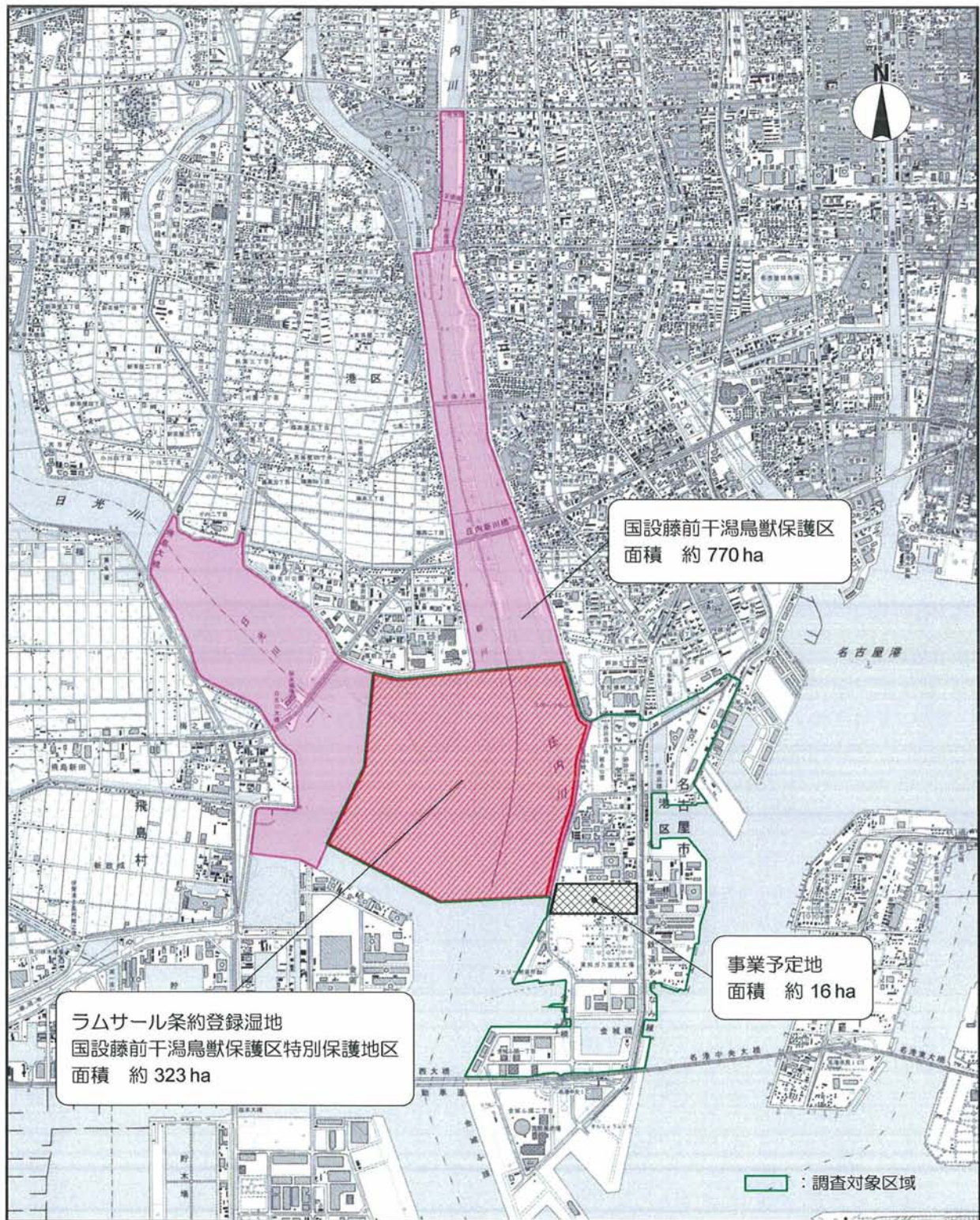
事業予定地



注) 既存資料により分布情報が得られた種のみを記載

- 資料: 1. 「第2回自然環境保全基礎調査 動植物分布図 愛知県」(昭和56年 環境庁)
 2. 「名古屋市港区藤前地先における公有水面埋立及び廃棄物最終処分場設置事業に係る環境影響評価書」(平成10年8月 名古屋港管理組合・名古屋市)

図4-1-16 動物重要種確認位置図



出典：「平成14年11月18日 環境省 報道発表資料」から作成

図4-1-17 ラムサール条約の登録区域等

(3) 生態系

ア 広域的な環境特性の把握

調査対象区域は、「生物多様性保全のための国土区分(試案)」(平成9年12月 環境庁)によると、本州中部太平洋側区域に属している。

周辺に存在する生物群集タイプには「区域の生物学的特性を示す生態系」として「照葉樹林生物群集」に該当する「熱田神宮(イスノキ林、スダジイ林等)」(名古屋市熱田区)がある。

調査対象区域及びその周辺における生態系の広域的な環境特性を把握するため、基盤となる環境について地形、水系及び植生等のまとまりに着目し、図4-1-18に示す環境類型区分図を作成した。

広域的な環境特性の把握の対象範囲は、事業予定地を中心に地域の概況を把握できる範囲として、調査対象区域及びその周辺とした。

植生及び土地の利用状況により、事業予定地を含む庄内川・新川より東側は工場・住宅地の集積した市街化の進んだ環境としてまとめられる。一方、庄内川・新川より西側は水田・畑地等の農地を主体とした環境としてまとめられる。

また、事業予定地の北北西側に庄内川・新川河口部がみられ、河川敷にヨシ群落の発達した河川及び河川敷の環境としてまとめられる。このほか、事業予定地西側は、潮汐により出現する広大な干潟(藤前干潟)がみられ、干潟を主体とした環境としてまとめられる。

以上のように、調査対象区域及びその周辺における広域的な環境特性としては、事業予定地を含む市街化の進んだ環境に、農地を主体とした環境、河川及び河川敷の環境、水域の干潟を主体とした環境が近接し、多様な環境がまとまりを持って存在していることが特徴として挙げられる。

イ 環境特性と生物群集の概要

類型区分された生態系の環境特性に着目し、既存資料により得られた動植物の情報を基に、各環境類型区分に生育・生息する代表的な動植物種とそれらの種間関係について、図4-1-19に食物網の模式図として示す。

調査対象区域及びその周辺の生態系は大きく水域と陸域とに区分される。

水域では植物プランクトン→動物プランクトン→ベントス→魚介類→鳥類(水鳥)→猛禽類という食物連鎖が成り立っていると考えられる。また、陸域では植物→昆虫類→鳥類・小型哺乳類・両生類・は虫類→肉食種→猛禽類という食物連鎖が成り立っていると考えられる。

水域の生態系を指標する生物としては、干潟環境に支えられて生息するベントス(ゴカイ・カニ類等)及びそれを餌とするサギ類、シギ・チドリ類、カモ類等の水鳥、さらにはそれらを餌とする肉食の猛禽類(ハヤブサ・ミサゴ)が想定される。

陸域の生態系を指標する生物としては、農耕地、ヨシ原という二次的な自然環境に支えられて生息する昆虫類(バッタ・チョウ・トンボ類等)及びそれを餌とするカエル類、ネズミ類、鳥類、さらにはそれらを餌とする肉食の猛禽類(チュウヒ・チョウゲンボウ)が想定される。

事業予定地を含む市街化の進んだ環境では、他の環境類型と比較して、生態系の基盤となる自然環境の豊かさに乏しいため、生態系を構成する生物群集は単純で貧弱でスズメ、ドバト、ドブネズミ等都市環境適応種が主体であると考えられ、注目すべき種は想定されない。

ただし、周辺の環境類型との関係性について着目すると、干潟環境に生息する水鳥等の休息・繁殖の場として利用されている可能性が挙げられる。

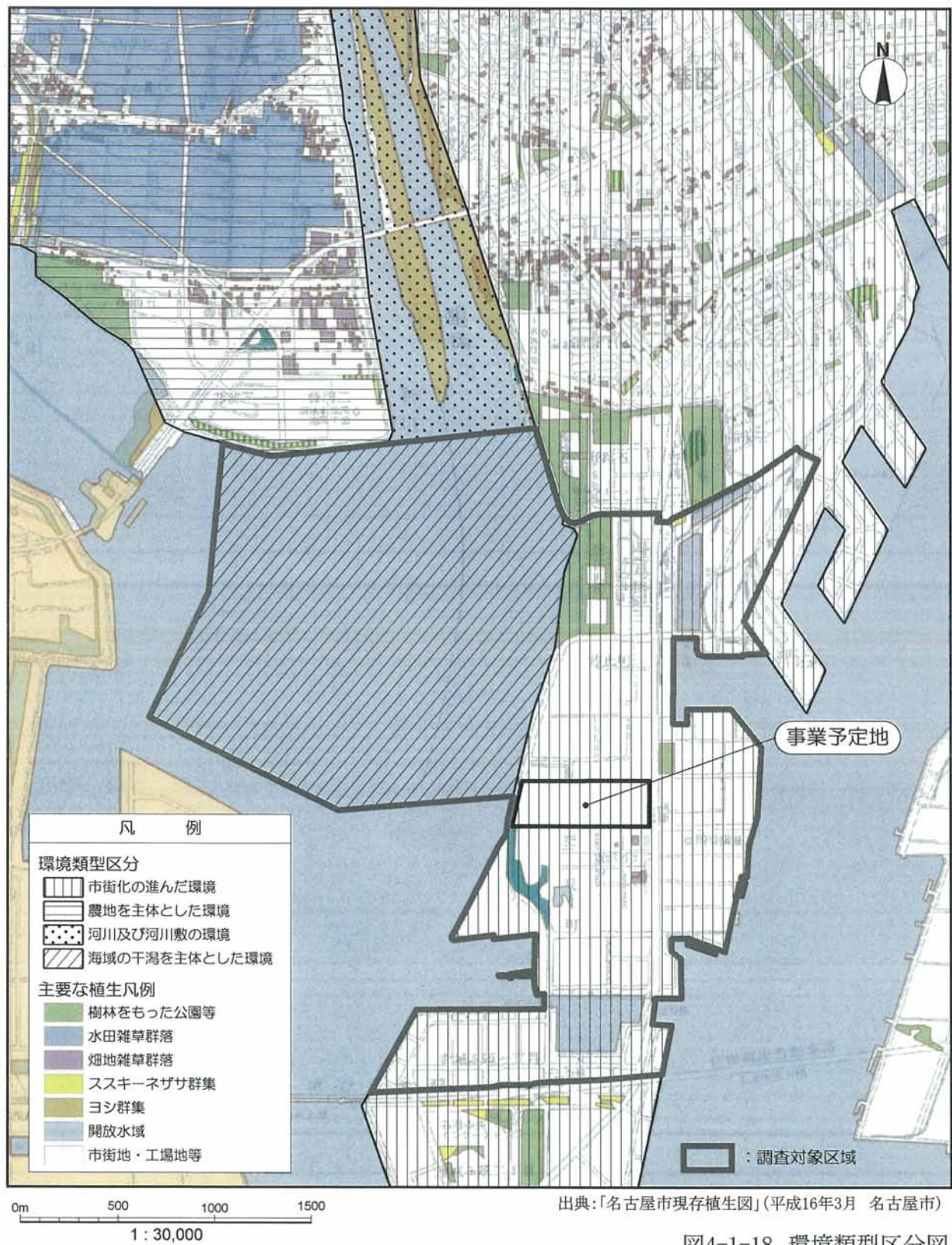


図4-1-18 環境類型区分図

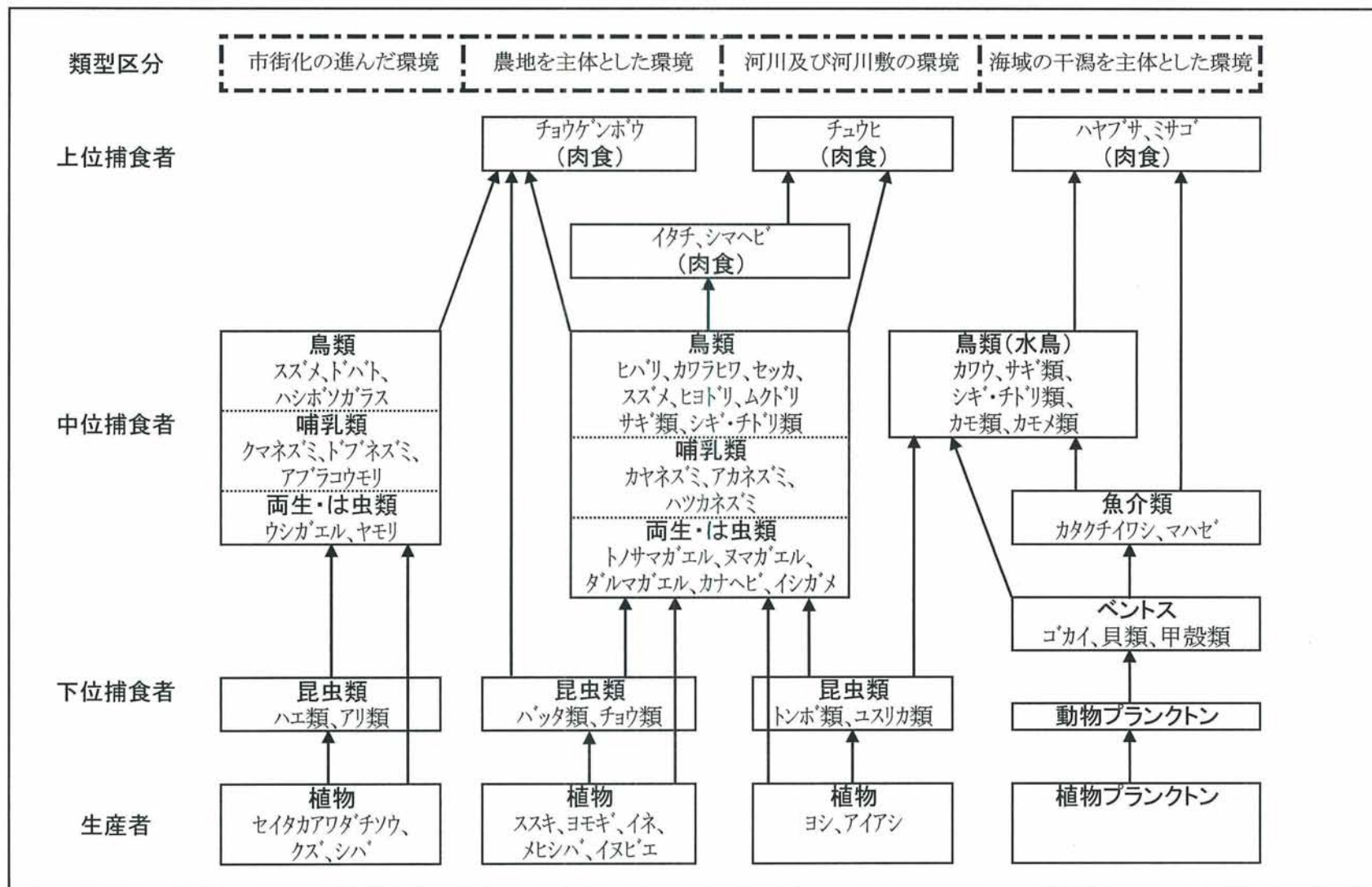


図 4-1-19 食物網の模式図

1 - 5 景観、人と自然との触れ合いの活動の場

(1) 景 観

調査対象区域を含む港区全域では、名古屋都市景観条例に基づく都市景観重要建築物及び都市景観重要工作物の指定はなされていない。

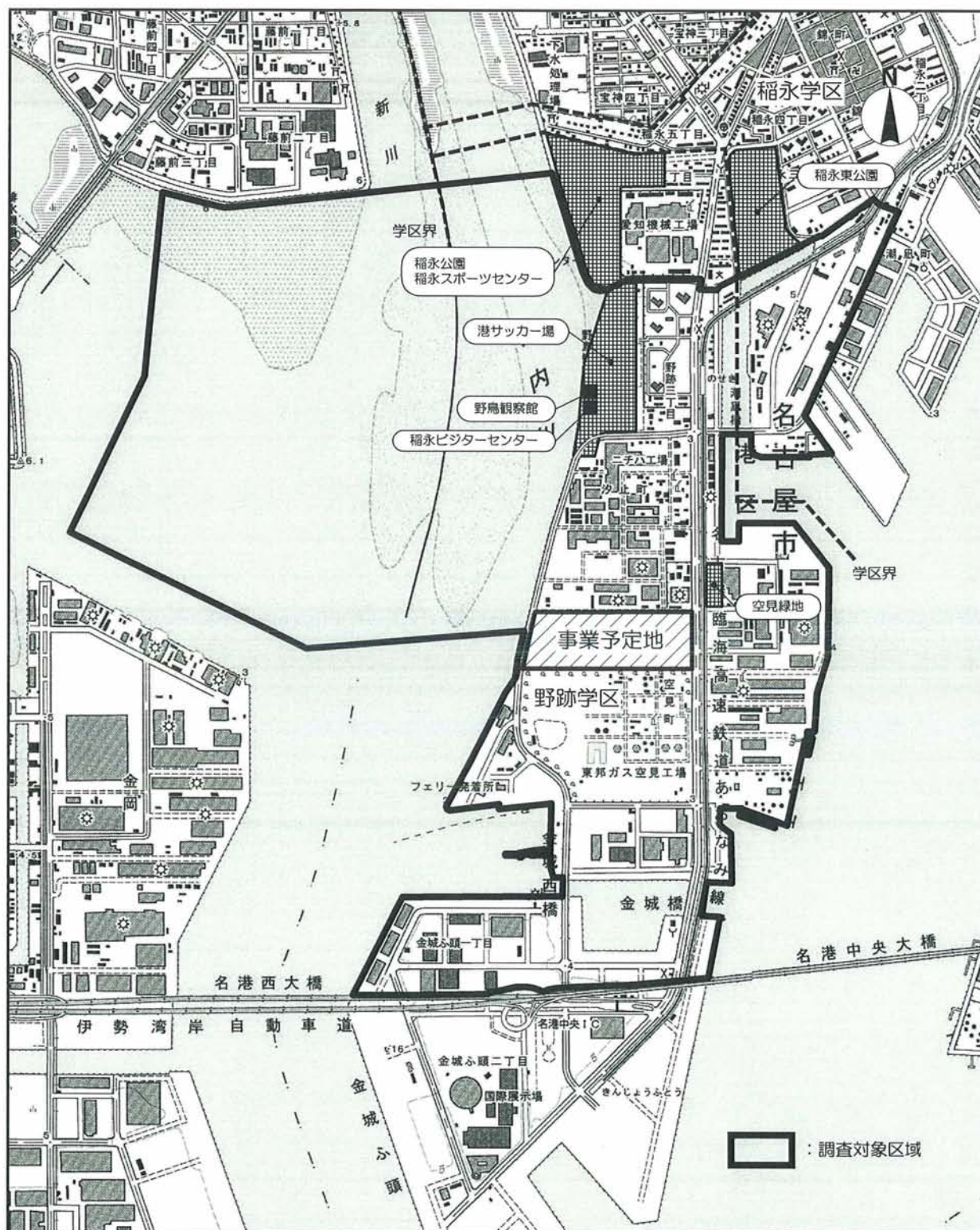
一方、名古屋都市景観条例で定める都市景観整備地区外においても、一定規模を超える大規模建築行為等(高さ 31m又は延べ面積1万 m^2 を超える建築物、高さ 31m又は敷地面積1万 m^2 を超える工作物、高さ 10m又は表示面積 100 m^2 を超える広告物等)は、地域の景観形成へ与える影響が大きいため、事前届出(地方自治体等が行う行為は通知)が義務づけられている。

(2) 人と自然との触れ合いの活動の場

事業予定地周辺の主要な人と自然との触れ合いの活動の場の分布は図 4-1-20 に示すとおりである。

事業予定地周辺には、主要な触れ合いの活動の場として、「空見緑地」、「稲永公園」、「野鳥観察館」、「稲永ビジターセンター」、「稲永東公園」が存在する。

なお、「稲永公園」には、稲永スポーツセンター、港サッカー場等が整備されている。



出典:「学区別生活環境調査報告書(平成9年度版)」(平成10年 名古屋市)から作成

図4-1-20 事業予定地周辺の主要な人と自然と触れ合いの活動の場の分布図